

a 学校教育目標	夢と志をもち、たくましく生きる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に愛される学校～安心して学べる学校・挨拶が溢れる学校・成果を生み出す学校～
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針	I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月		i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	◎基礎・基本の定着を図る。 ○活学力の育成を図る。	○算数科の言語活動を工夫した授業改善案を提示し、3校共通の授業スタイルを徹底する。 ○朝学習・確かな学習の時間に、診断的評価を活かしたフォローアップテスト・ドリル学習等繰り返し学習を徹底する。 ○国語辞典の活用計画を立て実施する。	○テスト(国語・算数)の平均75点以上の児童を75%(最終80%)以上にする。 ○「基礎・基本」定着状況調査における学校平均通過率を県平均以上にする。 ○標準学力調査において校内平均正答率が全国平均を上回るようにする。 ○国語辞典による語句 1年生30、2年生30(60)、3年生100(200)、4年生250(400)、5年生300(500)、6年生360(600)以上調べる。(1年生は単語の並び替え学習)	100%	82.8%		110.4%	A	○テストの平均75点以上の児童の割合は、国語82.8%、算数82.8%という達成値であった。国語では、ことばの学習に課題があり、算数では考える力に課題があるとともに、見直し不足の傾向もある。 ○「基礎・基本」定着状況調査における学校平均通過率は国語科本校88.6%、県平均74.4%、算数科本校79.4%、県平均71.6%で、どちらも県平均を大きく上回っている。 ○標準学力調査は、1月に実施予定である。 ○2～6年生は、54人中42人が目標を達成している。1年生は辞書引きの基礎となる50音の練習や音読、視写などに取組んだ。2年生は、一斉指導で一語ずつ引き、辞書の引き方に慣れることに重点をおいた。	・全体的に力についてはきているので、課題がある単元については、朝学、たしかめ学習の時間を活用し、復習をする。また、テストをした後、見直しをする習慣をつけるようにする。 ・教員研修で、実際に基礎基本の問題を解き、児童のつまずきを分析した。各学年で系統的につまずきに対する指導を行っていくようにする。 ・まだ辞書を引くスピードに個人差があるので、短時間で辞書が引けるよう意識させて年間目標数を達成できるよう取組む。国語の教科書の物語や説明文に出てくる言葉の言い切りの形にもとして辞書引きさせる。	5/5			・年々よくなっている。 ・改善をさらに進めてください。 ・子どもたちの授業態度が落ち着いていてよい。 ・外国語活動の授業をみると、子どもたちがしっかり発表していた。積極的でよい。 ・掲示されている絵をみると、とてもよく描いている児童が少なくないためか、一人一人によく指導されている。それが、いじめ0につながっている。
豊かな心の育成	◎郷土や母校への誇りと愛着の育成を図る。 ○「いじめ」の発生件数をゼロにする。 ○「挨拶」「返事」「靴そろえ」の定着を図る。	○道徳の内容と関連付けて、郷土を愛する心情を育てる。 ○「学校いじめ防止基本方針」「いじめ防止委員会」による組織的な取組を行う。 ○船木小あいさつレベルを作成し徹底する。 ○ポスターを作成し、要所に掲示して意識付けをする。	○地域の方々との関わりを持つ取組を2回実施することのできた学年100%。 ○「いじめ」の発生件数0 ○「あいさつ」返事「靴揃え」ができる子ども85%(最終90%)以上にする。	100%	100%		100%	A	○地域の方々との関わりを持つ取組は、どの学年においても積極的に行うことができた。 ○いじめの発生件数は0件であった。しかし、悪口、叩くなどの問題行動は起こっている。それらの問題はそ場で指導し解決してきた。 ○船木小あいさつレベルを上げることを児童会目標とし取組を進めた。各学級での指導を継続している。	・今後も感謝の会、コミセン祭りなどの行事を始め、教科学習の中においても地域の方との関わりを持つ取組を推進していく。 ・問題行動を起こす児童が固定化されており、指導を継続していく。 ・統合に向け、人間関係づくり能力の育成に取り組む。 ・児童会が返事、靴揃えのポスターを作成し、意識付けを行う。	5/5			・統合後はバス通学になるため、体力低下が心配である。体育朝会の取組はよい。
健やかな体の育成	○体力・運動能力の向上を図る。	○新体力テストを踏まえ、自己の目標を設定し瞬発力・敏捷性・持久力向上のための運動を推進する。 ○瞬発力・敏捷性・持久力のための準備体操を考案する。	○新体力テスト課題項目について、計測時より向上した児童70%(最終75%)以上にする。 ○体力向上のための準備体操実施率を100%にする。	75%	80%		106.7%	A	○本年度は長座体前屈と反復横跳びの再測定を行った。児童の柔軟性と瞬発力・敏捷性に課題があったため、体育科の学習や毎週の体育朝会で、ねらいに沿った運動を行った。また、児童の運動意欲を高めることができた。 ○体育科の単元内容に沿った準備体操を毎時間実施してきた。また、サーキットも行動い、体力向上に努めてきた。	・今後も、柔軟性を高めるためのストレッチや敏捷性を高めるための運動遊びを、体育朝会や体育の授業の中で継続していく。 ・児童が興味を持って積極的に活動できる準備体操について研修を進めている。	5/5			・わが子の学級だよりは今でもとっている。学級だよりは、大切だと思う。
信頼される学校	保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○ホームページや学校だより・学級通信で定期的、積極的に情報を発信する。 ○年間3回学校関係者評価を実施し、客観的な評価と改善をする。 ○服務研修を月1回以上実施する。	○保護者の学校に対する理解度信頼度85%(最終90%) ○学校関係者評価者の肯定的評価80%(最終90%) ○服務研修を月1回以上実施する。	90%	95%	100%	105.5%	A	○ホームページの更新、学校だよりの月1回の発行はできた。学級だよりの月1回の発行については、達成率が97.9%であった。学級だよりは、学校での取組や学級懇談会の内容報告など、学校と家庭が共通認識をもって取り組めるような内容も多くなり、内容的に高まっている。 ○服務研修については、月1回以上実施できている。服務研修の企画運営について、今年度は、低・中・高学年ブロックの担当とし、各ブロックの担当が研修の充実に向けて、工夫して企画・運営をしている。	・情報交換を行い、他学級の取組のよさから学んで取組に活かしていく。 ・今後も、服務研修の充実に向けて、担当が工夫して企画・運営を行う。	5/5			

【j:自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。

本年度の重点目標については◎印で示す。